

KAHF A ニュースレター 2005

2005.3.19 発行

連絡先 〒606-8305京都市左京区吉田河原町15-9 京大全館116号室

財団法人 京都国際文化協会内 KAHF-Aブロック 代表 谷垣昌敏

新たな春を感じる季節が巡ってまいりました。皆様にはご健勝のことと存じます。

お世話になっている留学生との交流など平素よりいろいろご協力をいただき心より感謝しております。KAHF Aブロックの一年間の活動報告を作成いたしましたので送らせていただきます。今回は名和様、山田様両ファミリーから、また、3名の留学生からの投稿もいただきました。

KAHFの活動も、発足が1984年3月ですから気が付かない間に22年目を迎えることとなります。今までに参加されたファミリーの総数は370ファミリー、受け入れた留学生は総計で1,300名を越えました。グローバル化の波が激しい近年の動きにおいて、KAHFのような気の張らないお茶の間の付き合いがこれからはますます必要になってくるのではないのでしょうか？現在、KAHFはAとBのブロックに分かれて、春のケーキパーティー以外は別々に活動していますが、融合の動きもあり、可能なら来年のニュースレターは合同の新たな門出としたいと考えております。皆様の一層のご協力をお願いいたします。何かご意見等ございましたら、お気軽にご連絡下さい。（谷垣）

★ホームページできました

KAHF会員の皆様

1年前から予告していたKAHFのホームページが悪戦苦闘の末やっと出来上がりました。とにかく公開することを目標に頑張ってきましたので、内容はまだまだ改良の余地があります。これから徐々にグレードアップして行きたいと思っておりますが、レイアウトやページの構成など、ご意見・ご提案をいただければ幸いです。

また、パソコンの知識を多少お持ちの方で、作成を手伝っていただける方を募集しています。詳しくは私までメールでお問い合わせください。尚、その他KAHFに対してのご質問、申し込み等は今後はKAHFのメールアドレス宛てにお願いいたします。

・HPアドレス <http://www.geocities.jp/kahfjp/>

・KAHFメール kahf@hotmail.co.jp

・辻メール t-atsuko@sings.jp

♪ 今年の行事予定

4月 A・B合同
ケーキパーティー

5月 ハイキング
上賀茂神社から太田神社で杜若を見て
宝ヶ池へ4kmウォークの予定

11月
大原バーベキュー



4月17日 (土) ケーキパーティー (於京都 大学工学部国際交流室)

毎年、世界中から新しい学生が京都にやってきます。ファミリーご自慢の手作り ケーキやクッキー、テーブルいっぱいのスイーツがアット言うまに無くなってしまいます。このパーティーで意気投合してファミリーが見つかることも



5月22日 (土) 春のハイキング (於大吉山)

ホストファミリー家族と留学生でハイキングに行きました。お天気もよく、久々の運動と宇治の自然を満喫しました。京阪宇治駅から程よい距離で、老若男女、ベビーカーの親子も参加しました。

7月10日 (土)

日本舞踊と三味線の無料体験..... (於 檜の会)

NPO法人 檜の会 の御協力により開催されました。約30名の留学生が日本文化の粋 を体験しました。これがきっかけでお稽古を始めた学生もいるとか



9月19日(日) 京都祭りに参加しました。留学生は素敵な民族衣装で、もちろんファミリーも民族衣装で偽留学生に。



11月13日(土) 大原バーベキュー (龍池財団大原学舎校庭)

毎年の恒例行事、集まる人数も毎回5~60人で、わいわい言いながら焼き肉、焼きそば、最近評判の炊き込みご飯。

お腹が一杯になったら、よ〜〜いドン!



2月12日(土) ファミリーの集い
(於レストラン「ラ・シゴニーユ」)

ファミリー間の親睦を図るねらいで始まった「ファミリーの集い」。グループ毎にテーブルに分かれ、先輩ファミリーの体験談に聞き入りながらご馳走を頂きました。
スマトラ沖地震被災者への募金約2万円を皆様よりいただきました。

♥ファミリーからの手紙♥

泣き笑いの里親で20年、そして30年
近く通訳業をして感じていること。

名和まどか

里親をするとは、地球上69億とも言われる人間の微々たる出会いです。ということは決してすごいことをしている訳ではないはず。とある作家が、生きるとは死ぬまでの時間潰しと書いていましたが、里親としての時間も、いかに良い時間潰しが出来るかであって、大袈裟に大上段に構えるのではなく、小さな草の根民間外交をやっていることだと思っています。日本を良く見せたい、あるいは自分が良い里親として見て欲しいとなると、自分が疲れ相手も疲れる、そこで些細な誤解が生じるわけです。

外交とはお互いの違いを理解すると巷では言いますが、それは無理です。理解など出来っこありません。違いを知りどこまで歩み寄れるか否かであって、お互い言いたいことを、感情に走らないよう、でもはっきりと、且つ理性とのヴァランスを取りながら、あるがままに見て言い合う、そして良い部分で一緒に喜ぶ、違う部分で難しければタブーにし、議論する余地があれば一つのテーマとして今後の考える部分として残して置く、そればかりに拘らないことが、楽に付き合える方法だと思います。其の為に里親を受けるほうも、多くの雑学と其の分析、そして自分のオピニオンをはっきり持つのが大切です。

同じ作家が、生きるとは恥の上塗りとも書いていました。大いに恥の上塗りしつつ、さりげなくすてきな日本文化を知ってもらうだけです。世界中で唯一貿易摩擦が無いのは文化の貿易で、その文化も大袈裟なことで無く、例えば我が家では食べた後の食器についた油を、その時に使った紙ナブキンや、古くなったTシャツも小さく切ってためて置き、そういった物で、洗う前に拭き取ることみたいな、生活の中での小さな知恵が大きな文化

だと思って教えてあげ、何故なのかも説明します。お料理も一緒に手伝ってもらうことで、彼らの日頃の食生活のレパートリーが広がったと喜んでもらったり、余った材料やお料理も、もったいないお化けが出るよと言ってアレンジ方法を教えてあげたりして、お客様扱いをしない。何よりも大切なのは何だか楽しかったと言ってもらう、と言うより言わせてしまう、お互いの五分五分の納得これが民間外交のポイントです。これはどんなジャンルにおけるプロとしての通訳の仕事でも同じことです。自分が一方的に良い訳が出来たと思いついていっているのは大いなる勘違いで、先ず相手がどう納得してくれて居るかによって、そこで初めて自分の自己満足だけでは、お互いの不満の原因を、自分の方から作っていると自覚すべきです。こちらが嫌だと思えば当然相手も同じことを感じている、だからこそ自然体でいるのが相手も自然にその場に溶け込み、とってもお互いが楽と言う訳です。自分が楽しいかどうかも一つの大きなポイントです。何よりも私が楽しくなければ！と支離滅裂な自分をさらけ出して。

『在るがままに。』ってすてきですよ！彼らが私を必要としてくれることで、生かされている面も大きいし、何かの時に、お互いがちょっとばかりのちょっかいを掛け合っているということだけなので、きれいごとではお互い何の役にもたないと思います。

すてきな人に出会う為に、自分もすてきな人になれたらと、私自身の反省を込めて、恥の上塗りをしている毎日です。反省ばかりの毎日だけど、タイトルで生きている訳ではないので、無くすものはありませんし疲れる生き方では、あー良かったって死ねなくなるので。

+++++

金益珠さんとの出逢いのあれこれ

山田清美

世話人の西村さんから誘われカーフの会の登録をして1ヶ月たったころ、地元、宇治の興聖寺他、散策してのハイキングに誘われました。近いこともあり、ホストファミリーとして参加、金さんに出逢った初めての集まりでした。

ハイキングで大吉山を歩く道々、いろいろな話をゆっくりとする中、興味をもっておられること、日本にどんなきっかけで留学されたのかなどプライベートな話をよくして下さい、私が彼を理解する上で大きな助けとなりました。ゆっくりですが日本語はとても上手にしていねいに話される方で、考えながら話されていました。私も彼も自分自身の一番話したい内容を話す中で彼がクリスチャンで私も同じ信仰を持つ者として気持ちがあっけと近寄った感じでした。初めて会った感じがせず親しみを感じてまた近いうちに、私の教会へあそびがてら来てみて下さいとメール交換してこの日は別れました。

それから金さんからメールが届き、私たちのメンバーとすっかり打ち解け、食事を共にし、おしゃべりに花が咲いたのですが、その時、すぐ家の近くに三味線の先生がおられるからという方がいて、金さんに紹介してもらい、さっそく訪ねることになりました。何事も願っている事を口に出すことで現実になってゆくものですね。心に秘めていた思いを何気なく話したことで、思いがけない三味線との出会いが与えられ、先生との出会いへと導かれました。その指導にあたる先生が私の主人の職場と同じところでしかも知り合いという偶然におどろきましたが、先生は金さんの異文化に対する情熱を感じられ熱心に教えて下さることになりました。

おりしも三味線の発表会もあり、金さんは祇園祭りや、ちまき売りのバイトをしたり、時間を作っては一生懸命けいこに励んでいました。三味線も先生の尽力で手に入れること

ができ、まさに先生の額で高価な三味線を5万円で購入、何ともいえず大喜びの金さんでした。

三味線の発表会でいっしょに行ったお婆さんは、また私の友人で、この方が長年ホストファミリーの受け入れをされていた方でした。面倒みの良い方でこの出逢いも楽しいものでしたね。

きっと忙しいなかにあっても、いろいろと自分の興味のあること探求したいものをあきらめずに求めていかれた金さんがわずかな間にこのような数々の出逢いへと導かれたのも、決して単なる偶然ばかりではないように思います。あきらめないで願ったことを実現していったことはとても良いすばらしい思い出になりました。金さんもそのことを小さな出逢いから始まったことを思っておられることでしょう。

～♥留学生からの手紙♥～

~~~~~エミリーさんより~~~~~

My dearest Sachiko-san

Happy New Year dear!

How have you been? How is your family?

I am very happy to have this chance to communicate to you.

We are very fine ,though there are so many changes.

Anande and Karen are fine. Anande is now in grade two.

Karen is in the second year nursery. Next year she will go to grade one.

I am very sorry that I could not communicate to you through your e-mail because it stuck.

Could you please write again youre-mail adress may be there were some mistakes.

Thank you very much for your support and encouragement when we're in Japan.

Greetings to Mrs.Hasegawa and your family.

Your

+++++  
~~~~レイチェルさんより~~~~

わたしは、レイチェルともうします。にシアフリカのCote Divoire からきました。1997にけっこんし、にほんに だんなのべんきょうのため きました。いままで わがくにをでることのなかった わたしですが とおい、とおい にほん。ことばもわからないぶんかも ちがうところに すむなんて すごいふまをかくせなかったけれども、まががんぼるしかないと、じぶんを はげました。じつは わたし いままで くにをでることを ひていしていた りゆうがあります。そのりゆうというのは、わたしは おおきいかぞくのひとりとして、きょうだいかこまれている、ともだちにもそうですし、それとわがくには、まわりのくにぐにとくらると たしかに へいわてきに りっばなくにでした。それぜんぶが、わたしのしあわせでした。ほんとに みんながあかるくて ゆうじょういっぱい、なによりも たいせつですとおもいました。

にほんにきて、にほんで こどもをうんで、おやのくろうをしる。いつも じぶんのなかに いつか こどもをくににつれていきたい。にほんのせいかつしか わからないむすこを くににつれていきたい。おやにもあわせてあげたい。そのきもちで こころがいっぱいでした。ところが、わたしが じまんにしていました くにが おもいもよらないじたいに なってしまいました。ないせんになってしまった。それにおおきいショックをうけました。なんで そんなこと？どうして？みんなどうしているのでしょうか？まいにち ねむれないひが おおくなりました。Newsをみるのも こわくなりました。いつまでそのじょうたいが つづくのだろう？うすかげつ ましになったり、つぎのうすかげつ また、ひどくなったりするし、いっても きけんなんだから いってはいけません。そうゆうなかで おとうさんが たいちょうをくずし、にゆういんのくりかえしばかりの せいかつをおっくっています。まさか あんなに げんきだったひとが かなりよわっているなんて たいへんと おも

います。だから げんきなうちに かおがみたい。こどもに あわせてあげたい。でも そうはいかない。わたしだけだと なにがおこっても いくけれど、むすこのことを かんがえると がまんするしかない。まつしかない。いつか はれのひが あらわれることを いのって まつしかないのです。

* A Family in Japan *

My name is Liliana Sanchez and I am from Honduras. I came to Kyoto three years ago to get my Masters Degree at the Faculty of Economics at Kyoto University. Upon arriving I got invited to attend a Cake Party and there learned about KAHF and immediately I applied for a Host Family. I was blessed with having the Nishi Family as my host family during these years in Japan. They shared their friendship and time with me and helped me adjust and understand many of the things that were happening around me and that were completely new to me. It has been wonderful to have a family to share my doubts and joys with, and I have learned from them many wonderful things about Japan that I would not have other wise. Most amazing of all is the fact that even though I will be soon returning to my country, I know I will always have a family in Kyoto, and they will always have a daughter in Honduras. Thanks KAHF for the wonderful service you give to foreign students like me.